科学の甲子園東京都大会　出場までの道のり　～後編～

11 月 1 日(日) 科学の甲子園東京都大会が都立戸山高校で行われました。体育館での開会式の後、生徒は、筆記試験と実技試験の装置制作に挑みました。


田園調布高校チーム


開会式(今年度は 56 校が出場)


筆記試験会場の様子

昼食後、体育館に移動し、午前中に制作した装置を使用して実技試験に臨みました。今年度の実技競技は、作成した扇を、装置を使って、決められた場所に飛ばすという競技でした。

各校、様々な工夫を凝らした装置を制作していました。実技をうまく実施することができて喜んでいる学校、うまく実施ができずに悔しがっている学校など、様々でした。


筆記試験と装置制作後の昼食



制作した装置


審判員からの競技説明

田園調布高校は、最終グループでの実施でした。この日にむけこの一週間、放課後に集まり装置の制作や扇を飛ばす練習を行い、本番でもうまくいく手ごたえをつかんでいました。

しかし、本番特有の緊張感の中、練習通りに扇を遠くへ飛ばすことができず、一回目のチャレンジでは、得点を獲得することができませんでした。そして、二回目のチャレンジ。ようやく狙った場所に、扇を着地させることができましたが、結局、うまく投げることができたのはこの一投だけでした。実技競技終了後、練習の成果を発揮できず、全員がとても悔しがっていましたが、それだけ本気で競技に取り組むことができたということだと思います。

今回、田園調布高校は、初出場だったため手探りで準備を進めてきましたが、今回の失敗や経験を後輩に引き継いで、来年度の大会に活かしていきたいと思います。


競技の様子





閉会式終了後の記念撮影

今大会の最終結果は、11 月 15 日(日)に行われる Tokyo サイエンスフェアで発表されます。Tokyo サイエンスフェアでは、9 月に実施した磯のフィールドワークの調査結果を代表生徒がポスター発表する予定です。